

詠む広場

毎日俳壇

西村 和子 選

力瘤見せ合ふ生徒夏は来ぬ

紀の川市 中島 走吟

△評▽中学生が高校生か。小学生は児童、大学生は学生と呼ぶ。身体はたくましいが心は無邪気。教室の情景に夏の訪れを実感した。病室の窓から遠くこいのぼり

相模原市 野村美羽子

△評▽空間の距離とともに心理的遠さも読み取りたい。病床の身にこいのぼりの活気はまぶしい。つばめ来て動体視力試さるる

常陸太田市 舘 健一郎

和菓子屋の中庭透かす夏のれん

川越市 大野有之介

いつの間にか月がでてゐる新能

三郷市 村山 邦保

今摘みし重を添へて手向けたり

加古川市 中村 立身

木道は早も泥んこ水芭蕉

兵庫 小林 恕水

「前方よし」若葉の覆ふ鉄路かな

明石市 島谷喜代孝

ペダル踏む初夏スカートは風はらみ

立川市 大西 信子

麦秋や役場で貰ふ万歩計

福岡 手島喜美江

井上 康明 選

子猫には子猫の世界秘ひとつ

町田市 枝澤 聖文

△評▽ひとつのまりと戯れる子猫には、けがれのない世界がある。それは、生まれたばかりの子猫が春を喜ぶ姿でもあるだろう。角打ちの地酒一杯夕立する

加古川市 伏見 昌子

△評▽酒屋の店先で地酒を飲んでいると夕立が通り過ぎた。涼風に包まれる旅の「ユマ」だろうか。筒鳥のこゑか警策打つ音か

周南市 九内 千沙

夏場所やさんばら髪の名乗り

川越市 大野有之介

アルバムの子まだ二十歳風薫る

甲斐市 松田 健嗣

落石を結果にして滝の音

志木市 谷村 康志

山国や四方八方山笑ふ

青森市 小山内豊彦

振花や回せば誰になりさつな

白井市 毘舎利道弘

力溜め跳ぶも二寸ぞ青蛙

川越市 益子さとし

三尺がほどのアロワナ夏館

東京 望月 清彦

片山由美子 選

春風やフェリー行き交ふ壇ノ浦

北九州市 篠原 敬祐

△評▽源平合戦の世は遠く、今や壇ノ浦にはフェリーが行き交っているのである。季語の「春風」がどこかを印象づける。初つばめ新築中の軒に来る

川越市 大野有之介

△評▽はるばる渡ってきたツバメが選んだのは新築中の家。ツバメも新居建築を始めることに。惜春や捨てるか決めし靴洗ふ

春日市 林田 久子

行く春や内祝てふ菓子とどく

富士宮市 矢野 悦子

花菜漬母に習ひし塩加減

東京 徳原 伸吉

敷石の隙間にのぞく重かな

調布市 畑田のぶ子

蝸牛熊野古道の入口に

和歌山市 武友 朋子

新緑の小径抜ければ美術館

土岐市 水野 雅子

ふり返り手を振る君子や藤の花

小田原市 林 梢

起きぬげの目薬窓に柿若葉

山梨市 浅川 青磁

小川 軽舟 選

海のごゑ梅雨のたご足配線に

熊本市 夏風かをる

△評▽梅雨時の部屋のたご足配線。およそ詩情のなきさうな日常の二隅にふと聞こえた「海のごゑ」が啓示のように響く。お遍路の鈴聞こゆるや漁師町

富士市 村田 新一

△評▽昼間はひっそりと静まった漁師町らしい。遍路の鈴がゆっくりに通り過ぎていく。夏立つや樹雨にけぐる山毛櫛の森

龍ヶ崎市 本谷 英基

薊咲く渡船場の列しづかなり

大阪市 佐竹 三佳

捌かるる前のひと跳ね桜鯛

西東京市 永島 忠

春雨や弥勒の頬に薄明かり

松本市 伊藤 和夫

三度目のスイッチバック山笑ふ

東久留米市 矢作 輝

子の住めば東京親し四月尽

兵庫 青木 朋子

うららかに本のパージをめぐる音

枚方市 谷 亜希

車いす積んで花見の送迎車

鶴ヶ島市 青木 律子

調べの鼓動

高尾山法楽会

星野高士

少し前、高尾山に行ってきた。こう言う、「登山に行かれたのですか」と言われることがあるが、そうではない。いつか時間に余裕ができたなら、高尾山の山頂に登ってみたいとは思っている。高尾山は京王線で新宿駅から一本。関東に住む人にとって身近な山だ。標高約600メートルと高くなく、週末になると大勢の登山客でにぎわう。中腹までロープウェイが出ていて、降りて少し歩くと高尾山薬王院がある。この薬王院に星野高士、高士の3代にわたる句碑が建っている。

・春風にのり大天狗小天狗 星野立子
・春風や森羅万象瑞々し 星野椿
・富士道といふ古道にも風光る 星野高士

高尾山では毎月句会が開かれていて、時々、星野立子が伺っていた。その時詠まれた句が句碑になっている。天狗の棲む山とされる高尾山ならはの一句だ。立子の後は娘の椿が、椿の後は(長男の)私が伺っている。その時できた良い句の中から1句ずつを句碑として建立していただいていた。ありがたく珍しいご縁だと思ふ。

今でも毎年4月、句碑に佐藤秀仁眞首ご導師が経を唱える「法楽会」に参加している。お祈りをする会だが、故人を悼むものではないので、「法要」ではなく「法楽」と呼ぶのだと聞いている。こうした経緯で、高尾山に行くのが毎年の楽しみになっている。普通の桜が終わり、山桜の盛りの頃になる。高尾山には登山以外の一面もある。

(ほしの・たかし)俳人

米川千嘉子 選

加藤 治郎 選

水原 紫苑 選

伊藤 一彦 選

「ああおいしい」満面で笑いたる友の太き心
に我もなりたし 春日市 林田 久子

雨の日と散歩しているみたいで誰かが練習
しているピアノ 津市 川原田明子

潮風の痛みひきとめられたままニケはたし
かに空を仰げり 加古川市 石村 まい

乗り損ね次の電車を待つまでのプラットホーム
ムに掌時間 沼津市 本田 影二



こちらから
投稿できます